

概要版

美郷町

# ICT 教育推進ビジョン

「美郷町の GIGA スクール構想」

**society5.0** 社会を生き抜く子どもたちの学びの創造のために

**GIGA** Global and Innovation Gateway for All  
～全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉～

R4

美郷町教育委員会

# 目次

○ はじめに「GIGA スクール構想」	… P2
○ ICT のこれまでとこれから	… P4
○ 美郷町の ICT 教育のめざす方向	… P5
○ 美郷町の学び	… P7
○ 美郷町の学びをもっと広げる	… P8
○ ICT 環境整備	… P9
○ Google workspace for Education	… P11
○ やむを得ず学校に登校できない児童生徒	… P12
○ タブレット端末の持ち帰り	… P13
○ タブレットで家庭学習	… P14
○ リスク&対策	… P16
1 美郷町の ICT 教育「GIGA スクール構想」	… P17
2 美郷町の ICT 環境整備	… P18
3 美郷町の ICT 運用ガイドライン	… P19
4 美郷町の情報活用能力	… P21
5 学習場面に応じた ICT 授業改革	… P22
6 タブレット端末管理規定	… P24
7 タブレット使用のルール	… P26
8 情報モラル	… P28
9 スキルチェック	… P29
10 iPad のアプリ	… P31
11 学校ではこんなアプリ使っています	… P32
12 ICT 教育推進会議	… P35
□ 美郷町教育振興基本計画	… P36

### (1) 策定の趣旨

- グローバル化や情報化が進む現代、日常生活で ICT は欠かせないものとなりました。次代を担う子どもたちが主体的に考え、他者と協働しながら、よりよい社会を創り出していくことができるように必要な資質・能力を育むことが、今求められています。
- 「教育基本法」・第 3 期「教育振興基本計画」H30.6・「今後 5 年間の教育施策の目標と施策群」において教育の情報化について、各地方自治体には、その**教育振興基本計画**(自治体の努力義務)等の中に、「教育の情報化についての方針」を地域の実態に応じて明確に位置付けることが求められました。
  - ※ P43 美郷町教育振興基本計画 I「社会を生き抜く力の育成」 ● 情報活用能力の育成
- 令和2年度より順次完全実施となる新学習指導要領(H29. 3告示)では、探求的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を行うことが示されました。そして、コンピューターや情報通信ネットワーク等を適切かつ効果的に活用し、「必要な情報を収集・整理し、発信できる能力」とされる**情報活用能力が「学習の基盤」として位置づけられ**、情報や情報手段を主体的に選択し活用できる教育環境と学びが重要となりました。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、各教科等におけるICTの活用の促進を図り、小学校でのプログラミング教育のほか、中学校での情報教育の一層の充実を図ることが求められています。 ※教科書改訂 R2 小 R3 中 R4 高
- Society 5.0 時代、超スマート社会、急激な人口減少社会時代と呼ばれる時代、2040代が目前です。2020 年からのコロナ禍において加速しているデジタルによる社会構造改革の波は、学校教育にまで急変革を必要とされました。その一方で、現在の学校のICT環境整備は世界と比較しても遅れをとっています。自治体間の格差も大きいため、令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務であると国が示しました。



内閣府 HP

- ・1人1台端末 R2 年度中に公立小中学校の児童生徒に
- ・高速大容量の通信ネットワーク(校内 LAN)
- ・クラウド活用推進
- ・ICT機器の整備調達体制の構築
- ・利活用のPDCAサイクル徹底

- 「多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる必要がある」としました。これが、「GIGAスクール構想」で、今後は ICT 教育の推進によって、未来にふさわしい新しい学校を実現させなければなりません。本来、この構想は R5 までに段階的に整備される予定でしたが、新型コロナウイルス感染の急拡大、緊急事態宣言により、令和 2 年度内にほぼ整備されました。(4,610 億円)

●教職員の長時間勤務の実態は看過できない状況です。コロナ禍における感染予防業務(消毒等)も大きな負担となっています。ICT の利活用によって教職員に時間をつくり出し、それが子どもたちと向き合う時間となるよう環境整備を図ります。負担軽減、働き方改革の一つとして「**統合型校務支援システム**」の導入に向けて、浜田管内三市三町担当者による協議を進めていきます。

●美郷町では、平成 27 年より、本格的に ICT 教育を進めるために 4 年生以上にタブレット端末を配備しました。端末はその後段階的に整え、令和元年、小学校 1 年生に配備し完了しました。R2 年度、端末の更新(小 4～中 3)の年でしたが、新型コロナウイルス感染症対策交付金により端末の入れ替えを行うことができました。**キーボード付タブレット**によって、これまで以上に「ローマ字入力」のスキルアップを図り、2024 年度からの「全国学力テスト CBT 化」に備えます。

※CBTシステムを使うと、音声読み上げや文字の拡大、配色の変更ができる等、個々に対応した支援ができる

●美郷町教育振興基本計画では、「美郷町を担う心豊かな人づくり」を基本理念とし、“学校・家庭・地域の連携・協働”による“豊かな感性をもち、主体的に学ぶ力”を育てることを基本方針として打ち出しています。Society5.0 社会の到来に向け「自分と郷土に誇りをもち、新たな価値を創出する子どもの育成」は急務でもあることから、

- ・一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できる教育とICT環境を実現する。
- ・子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現するため、1人1台端末を活用した授業改善を図る。
- ・オンライン学習(授業)の工夫、タブレット端末持ち帰りによる家庭学習を進める。
- ・校務支援システムの導入による「学校における働き方改革」を推進する。

ことを本町の GIGA スクールの目的とし、ICT 教育を推進します。

## (2)学校状況

●児童生徒、教職員数(R4.4 現在)

学校名	児童生徒数	教職員数	R10 推定 児童生徒数
呂智中学校	90	21	59
呂智小学校	138	23	84
大和中学校	23	17	26
大和小学校	58	18	42
合 計	309	*会計年度任用職員含む	211

# ICTのこれまでとこれから

●実現できたら、あなたがマスターしたら塗りつぶしていきましょう。



ファイルを共有すると、複数で1つのファイルを同時編修できるのでコメントを送り合ったり書き加えたりして、共に学ぶ関係をつくっていく  
できたら子から送信し、すぐ回答される



邑智小「椿原先生(熊本県)オンライン授業・研修」



邑智小「山くじら学習」  
榎おおち山くじら 森田朱音さんオンライン授業



邑智小「防災教育～ハザードマップポータルサイト～」

# ● 美郷町の ICT 教育のめざす方向

- (1)全国 ICT 教育首長協議会 H28 設立、全国 130 自治体、島根県では美郷町のみ加盟。  
2021 提言 1【DX の推進】 提言 2【未来にふさわしい新しい学びの創造と実現】

- 安心安全に端末を持ち帰り活用できるための、セキュリティ関連及び通信環境整備、アカウント維持のための支援
- 小中学生 1 人 1 台端末更新期の継続導入支援、高校生の 1 人 1 台端末導入支援
- LTE 通信利用及び公衆無線 LAN 整備の推進、学習用に特化した料金体系の見直し
- 職員室の DX による働き方改革
- データ活用教育実現のための情報のクラウド化
- ICT 支援員(サポーター)の配置
- ICT 活用のための教員研修の充実
- デジタル教科書への財政支援、CBT システムの機能充実

## (2)しまね教育魅力化ビジョン R2.3

「これからの社会は特に、子どもの人格形成に大きな影響を与える人的環境としての教師自身が、必要な資質・能力を備えていることが重要です。学ぶ意欲と最新の知識・技能など確かな学力をもち、一人一人の個性や主体性・多様性を発揮し、地域や社会・世界に目を向け、世代を超えて共に学んでいこうとする教師一人一人の志は、「教育の魅力化」、魅力ある学校づくりに欠かせない条件です。」

ビジョンの中で「学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育」として挙げられた内容は、ICT の利活用によって効果を上げることができます。要は、いかに「学習者主体の教育」に切り替えることができるかにかかっています。「考え、決定し、実践する」のは子どもたち自身です。

- 発達の段階に応じて必要とされる知識・技能を習得し、必要に応じて使いこなせるようにするため、「協調学習」の考えを取り入れた授業改善・・・アプリの活用
- 一人一人が授業でICT機器を効果的に活用することを通して、「情報活用能力」を育成
- 「ポートフォリオ」個別の学習履歴を活用して効果的な学習となるよう指導・・・クラウド
- 「キャリア・パスポート」の作成・活用・・・タブレットに記録していく
- 電子メディア接触による健康への影響や睡眠の重要性について子どもや保護者の理解を深め、家庭でのルールづくりを促すとともに、望ましい生活習慣の確立に向け、子どもたちが自ら考え、実践できる力を育成。・・・インターネットで調べることでもできる
- 望ましい食生活のために正しい知識と食習慣を身に付けるとともに、地場産物を活用した給食を教材とするなど、食育を推進。・・・タブレットを持って農家へ取材に行く
- 体力の向上とあきらめずに最後までやり遂げる力の育成を推進。・・・YouTubeで練習

### (3)しまねの学力育成推進プラン R3.3

- 学校が家庭学習において意図的に学びを広げ深められるような授業の展開、ICT を活用した家庭学習の在り方の研究など、家庭・地域との連携の下で家庭学習の充実を図る。
- 授業における効果的な ICT 活用の在り方の研究
- 特別支援教育の視点からの ICT の活用事例の情報提供
- 不登校傾向にある等、様々な課題を抱えている児童生徒支援に係る ICT 活用の好事例の収集・発信

### (4)バランスのとれた ICT 環境整備と活用

ICT 教育では、「タブレット端末や電子黒板を使えば学力が向上する」を目指したわけではなく、これからもそれは同じです。ICT 自体が学力を上げるわけではありません。ICT による「効率アップ」が、授業を楽しく、わかりやすくしたおかげで学力が上がるということです。

美郷町はこれまで蓄積されたノウハウを生かし、これからも最大限に ICT 活用に取り組んでいきます。ICT 支援員 2 名の存在はとても大きく、情報未来技術戦略課との連携も頼りになっています。

#### ○児童生徒による活用

- ① キーボード入力（小学校中学年から、毎日ローマ字入力） \*P28「情報活用能力表」参照
- ② 基本的なセキュリティの習得（SNS、ウイルス、著作権、個人情報、いじめ）
- ③ 個別最適な学び（デジタル教科書活用、AIドリル）
- ④ ふるさと教育～ふるさと発信力
- ⑤ 邑智地域と大和地域のオンライン交流
- ⑥ 家庭へのタブレット端末の持ち帰り（予習・復習・宿題）
- ⑦ 不登校児童生徒のオンライン授業参加



#### ○教師による活用

- ① ICT を活用した授業づくり ハイブリッド化で効率化、時間づくり
- ② Google workspace for Education の活用(課題配信・提出)
- ③ できるから苦手への「OJT」で、これからはどこで勤務しても ICT はok
- ④ オンライン授業・研修 「感染症対策」「不登校対応」「バリエーションの交流」「働き方改革」
- ⑤ デジタル化で働き方改革 自宅でも遠隔会議システムできるスキル

#### ○ICT 支援員

- ① 美郷町の強みは、ICT 支援員が 2 名、他の市町にはない。「助かったあ!」「できたー」
- ② 美郷町が蓄積してきた ICT のノウハウを身に付ける、まさに「学力向上」
- ③ ICT 支援員との連携が、まさに「授業づくりの工夫」「働き方改革」

#### ○地域社会

- ① 町民の社会教育プログラム

# ● 美郷町の学び

## 自己調整学習 self-regulated learning

東北大学大学院、情報科学研究科の堀田龍也教授は、『小学校でも「自学」というのを前から行っていますが、自分の好きなことを学ぶというのではなく、自分の関心に向かって、**自分のペースで、自分で学び方を工夫しながら学んでいく、そういう学習のエンジンをちゃんと持っているような学習者を育てる**、というのがこれからの時代だと思います。』と説明しています。「自己をコントロールしながら」というと難しいですが、「自分のペースで工夫しながら」というとわかりやすいです。

美郷町は、「文房具のように」を合言葉に、県内では ICT 教育のトップランナーを走ってきました。学校では日常的に ICT 機器が使われ、子どもたちは正に文房具のようにタブレット端末を扱うことができるようになりました。2020 春の臨時休業時のオンライン授業が素早く混乱なくセッティングできたのはこれまでの経験があったからです。しかし、子どもたちが自分の学びのためのアイテムとして、学びのエンジンとして ICT 機器を活用していたかという疑問です。

これからの美郷町が目指す ICT 教育においては、「**タブレット端末は子どものもので、使い方を決めるのは子ども自身。大人が子どもの学びにブレーキをかけない**」ことが大切であると考えています。これまでの蓄積をもとに、利活用は子どもたちに任せてみてもいいのではないかと。子どもたちが「使いたいときに、すっと出して、ちょっと使う」を合言葉にしたいものです。

配信されている動画は、学校の授業レベルとさほど変わらないものが、いくつか見られます。自分に合ったものを見ることができます。極端なことを言えば、学校に行かなくても授業は見られます。先生に教えてもらっても逆上がりができなかったのに、YouTube を何回も見たらできるようになった」なんてケースは、山ほどありそうで、**教師に求められるのは「授業の転換」**です。

### ☆学習者中心の教育へ授業観の転換を

**自分のペースで、自分で学び方を工夫しながら学んでいく、そういう学習のエンジンをちゃんと持っているような学習者を育てる。**

堀田龍也教授の言葉を付け加えておきます。

ちょっとググって調べる  
必要なことはデジタルで残しておく  
ICT を使って自分のペースで学べるように  
AIドリルが子どもたちを直接支援  
共同作業はクラウド上で行うことで、帰宅しても続きができる  
スタディ・ログの集積・分析  
遠隔地から専門家の助言  
「教員支援システム」によって、不足した授業力(教材研究)を ICT で支援

# ● 美郷町の学びをもっと広げる

● **教師に求められるのは「授業の転換」**とはどういうことでしょうか。それは、「これまでの対面授業ばかりでは通用しない。時間や距離という壁を越えてこそ質の高い教育が実現できる。」ということです。対面と遠隔オンラインとの組み合わせ、「アナログとデジタルのハイブリッド化」です。

中山間地の小規模校でも遠隔授業で町内、郡内、県内外の学校と交流しながら、多様な考えに触れたり、協働学習をしたり。

インドネシアのマス村の学生とも地域おこし協力隊や技能実習生、CIR、ALTの協力で海外の子どもたちとつながる。

不登校児童生徒への学習指導タブレット端末を渡して。その子の状況に応じた支援の工夫。毎朝、健康観察だけにする。オンラインで授業の様子を送る。1日1時間は双方向オンライン授業。

感染症・病気療養入院等の学習オンラインで病院と教室がつながれば、発表したり、協働学習してりできる。授業映像を送るだけでも。

麻布大学や近隣高校と連携キャリア教育の一環として年間を通した連携ができる。入学説明会は、生徒が直接出向かなくても遠隔出演。

Cloudと校務支援システムクラウドで働き方改革。異動時の負担軽減。テレワークもできる。

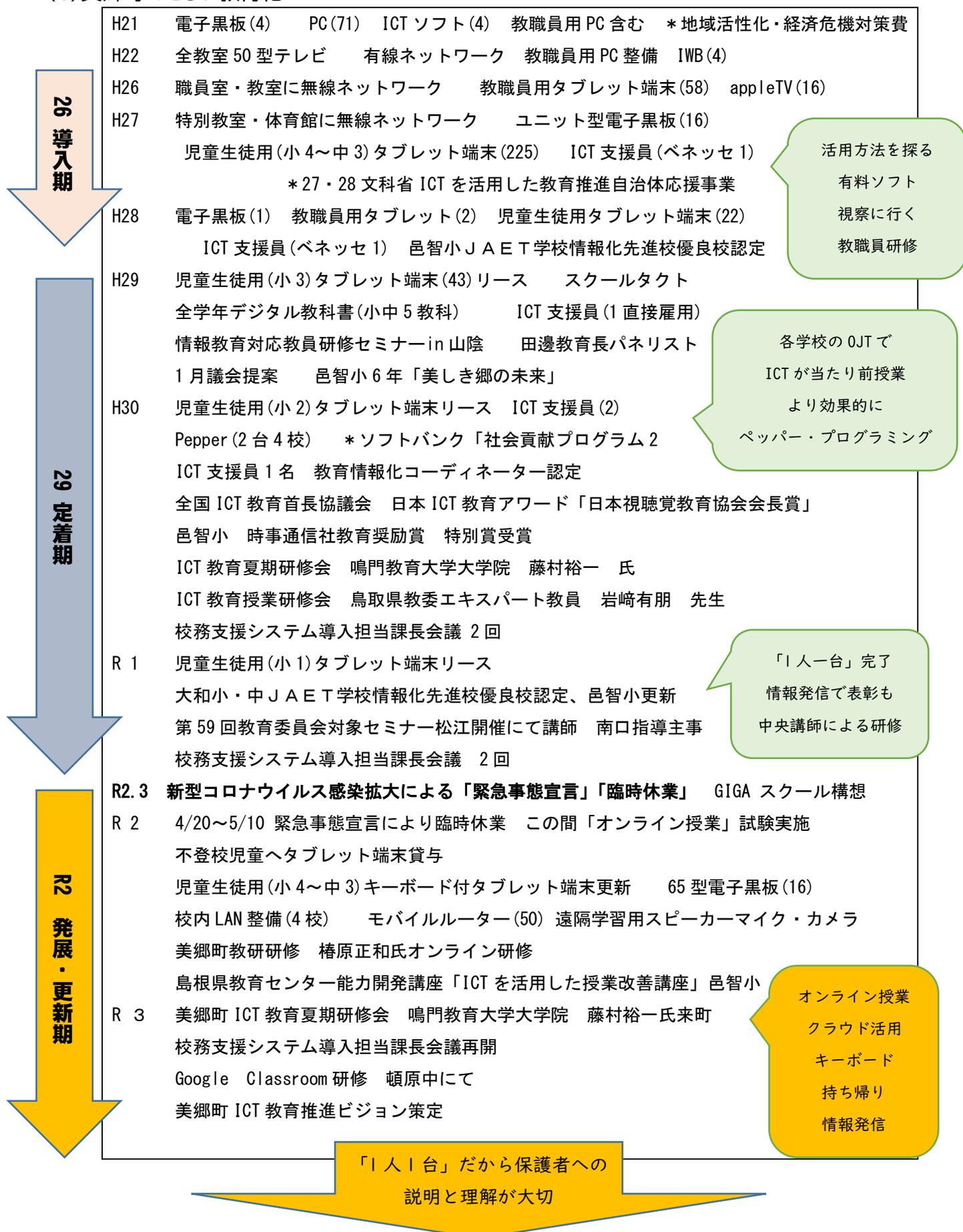
自分の勉強スタイルで学力アップ  
教師から配られたプリントや課題が家庭学習であったが、これからは、端末を頼りにしながら自分スタイルが生まれる。学習エンジンをもった学習者になる。教師に宿題を出す側に？  
ゲーム時間が減るかもしれない。

「オンライン授業いつでも」環境大水害や新型コロナウイルス感染、インフルエンザ等で臨時休業になっても、学べる。公民館、隣保館の通信環境整備も併せて。

免許外教員のサポート  
中学校の免許外を担当している教員にとっては、実技系の動画は大変助かるし、生徒にとっても有効なものがたくさんある。模範はYouTubeでどうぞ。

# ICT 環境整備

## (1)美郷町の ICT 教育化



活用方法を探る  
 有料ソフト  
 視察に行く  
 教職員研修

各学校の OJT で  
 ICT が当たり前授業  
 より効果的に  
 ペッパー・プログラミング

「1 人 1 台」完了  
 情報発信で表彰も  
 中央講師による研修

オンライン授業  
 クラウド活用  
 キーボード  
 持ち帰り  
 情報発信

## (2)環境

### ●タブレット端末

R1 小学校 1 年生のタブレット端末を整備し「一人一台」整備完了

R2「GIGA スクール構想」にて全国の小中学生「一人一台」及び高速化を実現

・美郷町では、小学校 4 年生から中学校 3 年生までタブレット端末を更新

### ●大型提示装 65 インチ大型モニターに更新・整備

### ●書画カメラ 普通教室に整備済、ほとんどタブレット端末を活用

### ●遠隔学習用スピーカーマイク、カメラ、パソコン

### ●インターネット接続状況 クラウド活用により、高速インターネット

### ●校内ネットワーク LAN 配線、ネットワーク機器更新

### ●モバイルルーター 50 台

### ●デジタル教科書 教師用(整備済) 学習者用(未整備)

今後文科省は紙教科書との併用をめざす(R6 小学校教科書改訂～)

### ●統合型校務支援システムの整備

・島根県教職員 H30 年度調査 時間外勤務平均 5.1 時間

・浜田管内は未整備の状態

### ●学校におけるクラウド活用

学習用データをクラウドに保存し活用を一層目指す(全国では 12.2%)



## (3)支援

### ●ICT 支援員はパートナー 2 人/4 校 (文科省 1 人/4 校配備を目標)

・技術的な作業+専門的な情報を提供 ICT 機器の準備・メンテナンス・トラブル対応、研修

・教材作成提案、学校行事支援

・安定的に確保することが難しい。支援員の派遣を外部に委託することもできる。

・ICT 支援員能力認定試験(公的試験あり)

### ●情報未来技術戦略課が、R2 年度より ICT 教育推進会議のメンバー

### ●GIGA スクールサポーター 機材の導入設定段階からサポート 本町はなし

## (4)実績

○JAET(日本教育工学協会) 「学校情報化認定 優良校」

邑智小 2016 年 12 月 1 日認定

大和小 2019 年 5 月 1 日認定

大和中 2019 年 4 月 1 日認定

邑智中 未



# ● Google workspace for Education

校及びホームスクールでのコラボレーション、指導の効率化、安全な学習環境の維持を目的に  
カスタマイズされた Google ツールとサービスのセット

- 時間とコストの削減
- テストやアンケートを簡単に作成・回収し、回答を分析することもできる
- 利用は無料
- 教育への効果は、使い方次第
- 生徒と教師のプライバシーの保護と優れたセキュリティ機能の両立
- Google が児童生徒のデータを保有したり、広告を表示したりすることはない

○契約ドメイン名      shimane-misato.ed.jp

○契約日                2021.9.15

○本稼働                2022.3.1

教員同士の打ち合わせも iPad で  
同じ画面を見ながらその場で記入  
します。

Google Classroom    授業での課題の作成、配布、採点をウェブ上でできる  
個人課題を出す、グループ課題を出す、授業のお知らせ

Google フォーム        児童生徒の意見を聞こう

Google jamboard      ワークシートをつくる

Google ドキュメント   多々しい英語の発音

プリントの印刷や配布、回収といった作  
業がなくなり、データがあれば、配布後  
に修正も可能。内容の事前チェックの時  
間も節約できます。

Gmail                    教師用メール

Google Meet            ビデオ会議

Google Drive          ファイルの共有

○アカウントのルール    misa-bou2021@shimane-misato.ed.jp    姓-名    2021 入学

○パスワード管理        児童生徒はランダムな数字、教師は任意

## (1) スケジュール

10月                    邑智小学校アカウント作成・導入の準備

11月～1月            邑智小学校において実証実験 4～6 年  
他 3 校の導入準備

2月                    操作研修

4月                    本稼働





# やむを得ず学校に登校できない児童生徒への ICT を活用した

## 学習指導等を行うためのチェックリスト

文科省 R3.8.27

このチェックリストは、**臨時休業** や**出席停止等**により、**やむを得ず学校に登校できない児童生徒への ICT を活用した学習指導等を行うためのもの**です。タブレット端末の持ち帰り等で学びを止めないとともに、規則正しい生活習慣を維持し、学校と児童生徒との関係等を継続するためにも重要です。

### 1. 学習指導等の実施

- 同時双方向型のウェブ会議システム、クラス管理機能等を活用して、朝の会、健康観察等
- 学習者用デジタル教科書、デジタル教材やオンデマンド動画等の既存のコンテンツ等を活用
- 課題を配信する際には、適切な内容や量となるよう留意しているか
- ICT 端末利用にあたり、健康への影響や情報モラルに配慮しているか
- 同時双方向型のウェブ会議システムを活用して、教師による学習指導等を行っているか
- チャットで質問ができるなど、個別に指導を受けられるようにしているか
- 指導者用端末を利用し、大型提示装置にも接続して、児童生徒の様子を教師が把握しやすくしている  
場合によっては、教師の自宅等から行うことも考えられる
- ICT 端末を教卓に設置して、黒板や教師の姿を自宅等にいる児童生徒と共有している
- ICT 端末を据え付けた三脚を設置。同時双方向型のウェブ会議システム等を利用して、授業に自宅等にいる児童生徒が参加できるようにしている。マイクも利用。
- 教室と自宅等をつないで、授業に参加できるようにして、孤独感や不安感を軽減しているか
- 児童生徒がチャットで質問ができるなど、個別に指導を受けられるようにするなどしているか

### 2. 学校と自宅等の ICT 環境の整備

- ICT 端末等を自宅等に持ち帰り、安心・安全に使用するためのルールやガイドラインなどを明確にし、教職員・保護者・児童生徒にわかりやすく示されているか
- ICT 端末等が自宅等でも利用可能か、自宅等の通信環境について把握しているか
- ICT 端末等を自宅等に持ち帰る時、通信環境が整っていない自宅等に対する具体的な対策を講じているか。(Wi-Fi ルーター、USB ドングル、SIM カードの貸与、自宅等での Wi-Fi 利用に関する支援等)
- 学校や公共機関等(公民館等)の ICT を活用した学習が継続できる環境を整えているか
- 非常時に備え、ICT 端末の持ち帰り、自宅等での学習において ICT を活用しているか
- 必要に応じて、授業後や放課後等にオンラインでの面談を実施し、コミュニケーションを取ることもできる
- 学校・教員・児童生徒が使用する機材について、教育委員会において準備しているか。
- 学校に必要なネットワーク環境(通信速度の測定)円滑な通信のために必要な環境が確保できているか
- 教師の自宅等から円滑な通信のために必要な環境が確保できているか確認しているか。

### 3. GIGA スクール構想により整備された ICT 端末の標準仕様となっているツール等

- クラス管理機能、チャット機能、ファイル共有機能等を含む汎用的なソフト等を利用できるよう、サービスやアカウントを準備・設定するとともに、利用のルールをわかりやすく示しているか
- クラス管理機能等を含む汎用的なソフトや同時双方向型のウェブ会議システム等を平常時から、教室に加え自宅等でも利用し、児童生徒が使用に慣れるようにしているか。

# ● タブレット端末の持ち帰り

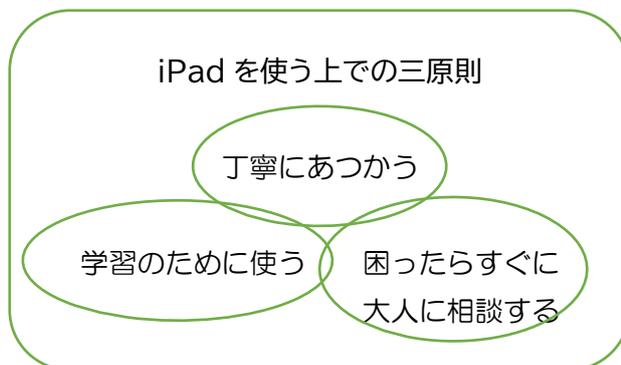
……もはや、学校に行っても学ばなければ情報が手に入らないという時代ではない。

## (1) 持ち帰りマニュアル「タブレット端末を持ち帰って学びをもっと広げよう」

- 先生から「持ち帰って、学習します」の指示、毎日持ち帰るのが習慣化
- ランドセルの真ん中、教科書の間に入れて、帰ったら安全な場所に置く
- 学習が終わったら、充電して、ランドセルの真ん中に入れる

## (2) ルール「持ち帰り学習の約束」

- 「持ち帰りタブレットのルール」を守って使います
- 保護者は、ルールと端末の使用状況を確認します
- 破損や故障した場合の確認をします
- ランドセルに入れたか確認します



## (3) 実践編

### <オフラインで>

- 教師は連絡黒板写真 → 生徒のタブレットに送信 → 持ち帰ってチャット → 次の日担任に送信
- 学校の様子を写真 → おうちの人に見せる

### <オンラインで>

- ドリル、採点し担任に送る
- 日曜日の「オンライン英会話」
- ある種の課題については、できた課題をすぐ教師に送ることで、教師・児童生徒共にメリットがあることもある。頻繁に送信されては教師も大変だが、時間を設定するなどすれば、学校での仕事量が減る。すぐにアドバイスをもらえれば、やる気も増すというもの。

- ◆学力向上に向けた家庭学習について実践し、検証していく。
- ◆健康被害についても併せて調査していく必要がある。

# ● タブレットで家庭学習

1

## 学力向上に向けた取り組みの推進

学力 ⇒ 感じ取り・提案できる力

- ①基礎・基本の定着と学習習慣の確立
- ②主体的・対話的な学習活動
- ③ICTを活用した学習活動  
⇒ タブレットの持ち帰り

**Google workspace**

2

## Google workspace

◎タブレット版の学習プリント

○自宅から課題の提出

教師「できた人から送ってね。土日で見えあげよ。」  
生徒「自分の力に合った方法やスピードできる。」

○写真や資料の共有

○行事予定表などのデータ配信

○日曜日の英会話教室

3



4



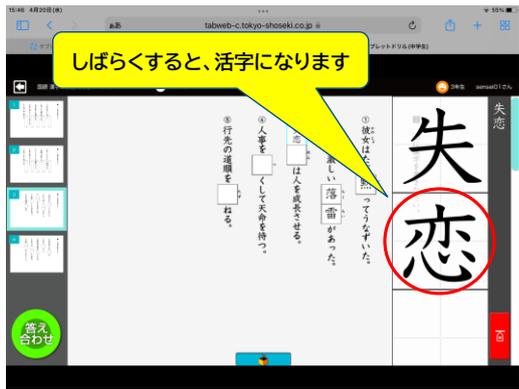
5



6



7



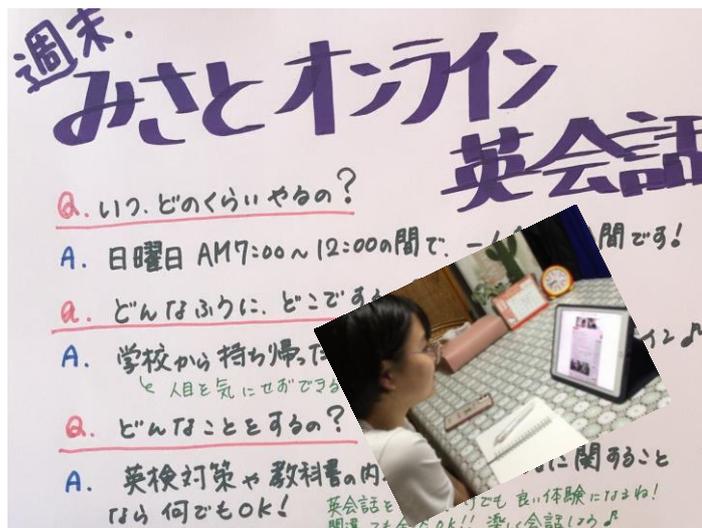
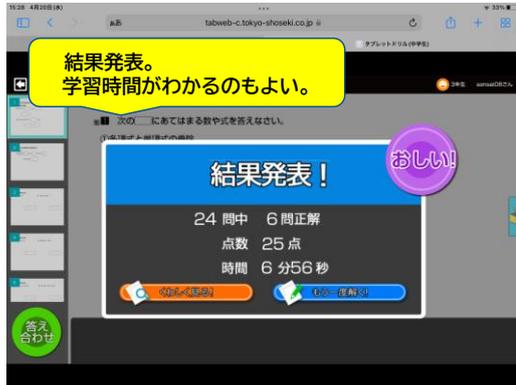
8



9



10



# ● リスク & 対策

○「リスクを恐れることが一番のリスク」…だから不安や課題を一つずつクリアしていく

○デメリット ①板書する機会が減る ②地域・学校・教師で格差が生まれる ③使い方を誤るとトラブル。

・手書きには、何度も繰り返し書くことで記憶に残ることや理解力の向上が期待できる。

書くことは脳の活性化にもいい。しかしこれも、書くことが苦手な児童生徒にとっては、苦痛。

○何でもインターネットを使ってすぐに調べてしまうと、想像力の低下につながる懸念

・図書館との連携が必要

○SNSによる いじめ 性犯罪被害 依存症 個人情報が出れる

・R2.11 東京町田市立小 6 年児童がいじめを受けたと訴え遺書を残して自死した問題は、持ち帰りタブレットを使っての可能性

・有害な web サイト閲覧による直接被害

・インターネット依存、ゲーム逃避、そして引きこもり



○健康被害 視力低下 頭痛 心疾患

○サイバー攻撃、架空請求、なりすまし

○持ち帰りは、盗難・転売の危険性が高まる。盗難されづらい対策(ロック、データ消去、初期化できない)

○教師が、ICT を使うことが目的になると、授業効率が悪くなる。

○別冊読み物

<目次>

無料ゲームの落とし穴

アイテム購入

通信販売 返品がききますか

「会いたいな」

ネットいじめ

視力の低下

他

SNS・インターネット・ゲーム

トラブルに巻き込まれないために  
知っておかなければならないこと

子ども・保護者・教職員編



美郷町教育委員会 R3.12